福岡大学病院 病理部 卒後臨床研修プログラム

I. 特 徴

スタッフの幅広い専門分野を背景として、その指導のもと、剖検、外科病理診断を通して、疾患の病態、基本的な病理学的変化とその捉え方、考え方を学ぶ。日々の診断を通した指導と共に、Teaching File の標本を用いた臓器ごとの主たる疾患の review が行われるのも特徴である。

Ⅱ. 診療科概要

福岡大学病院は病床数 915、病理部では年間（令和 3 年度）に病理組織検査 11,876 件、術中迅速診断 520 件、病理細胞診 5,586 件、剖検 10 例（院内 11, 院外 0), 臨床病理症例検討会（CPC）13 例を行っている。 指導スタッフ 6 名（教授 1、准教授 2、講 師 2、助教 1）は、濵﨑 慎 病理部診療部長・教授（呼吸器、縦隔、乳腺)、濵田義浩 病理部副診療部長・准教授（肝胆膵、消化管)、上杉憲子 准教授・医局長（腎臓、血管)、青木光希子 講師（骨軟部、乳腺、脳神経)、古賀佳織 講師（皮膚、骨軟部)、武藤礼治 助教（造血器)で構成されている。診断にあたっては、必要に応じて免疫組織化学、電子顕微鏡、分子生物学的手法（FISH, PCR など）も用いて取り組んでいる。

Ⅲ. 研修目標

臨床医学における病理診断の意義と重要性を理解し、病理検査材料の正しい取り扱い方、生検病理診断、細胞診、剖検に関する基本的知識を習得し、病理診断および剖検報告書の作成に参加する。将来、病理を専攻しようとする者には、病理専門医（厚生労働省認定）資格取得のための研修の一環となる。各症例の診断、治療における、病理と臨床各科との連携の重要性を理解する。厚生労働省の提示した行動および経験目標のうち、チーム医療、問題対応能力、安全管理、症例呈示、 医療の社会性、患者医師関係、基本的臨床検査手技（12)、医療記録など、病理の関連するものを習得する。

IV. 研修内容

研修担当医の指導のもと、外科病理診断、術中迅速診断、剖検に参加し、所見の検閲を受け、報告書を作成する。この過程を通して、基本的知識、考え方を学ぶ。また、Teaching File を用いて、消化器、婦人科、呼吸器の主たる疾患について review を行う。

(1) 研修第１日目に、施設設備の概要と利用法、文献と診断記録の検索法、医事法規（死体解剖保存法)、病理研修における要点などについて、オリエンテーションを行う。
(2) 病理検体の肉眼記録、切り出しには、毎日参加し、すべての臓器材料の正しい取り扱い方を学ぶ。

(3) 外科病理診断には毎日参加し、担当症例は全例、指導医による検閲と指導を受け、基本的知識を習得する。
(4) 術中迅速診断に参加し（週１～２日）、その適応、標本作製過程、診断の限界を学ぶ。
(5) 剖検は少なくとも１症例は指導医のもとで執刀し、臨床病理学的検討会（CPC）で症例の呈示を行い、剖検報告書を作成する。研修期間中の CPC は可能な限り参加する。
(6) 臨床各科とのカンファレンスにも積極的に参加し、症例提示を行う。病理診断における連係の大切さを学ぶ。
(7) 研修期間中に日本病理学会九州沖縄支部のスライドカンファレンスと病理集談会に出席、発表する。

Ⅴ．当部の医療安全等に係る研修医教育

以下の項目に留意しながら、日常の研修指導を行っている。

病理におけるチーム医療とは：臨床科との連携・コミュニケーションの重要性について/病理診断（日常診療業務）における留意点。報告書の作成方法 / 病理標本切り出し法(小物材料)、病理標本作製方法 / 細胞診標本の観察・標本作製方法。細胞診診断の意義 / 外科大物材料の観察・切り出し法(1) 消化管および (2) 肺の外科大物材料の観察・切り出し法 / 現在の病理解剖の意義。病理解剖報告書の作成法 / 病理解剖の具体的方法。感染症がある場合の解剖の注意点を含めて / 術中迅速診断法方法と意義、凍結標本を見る際の注意点 / 臨床病理カンファレンスの意義、病理側プレゼンテーション方法 / 診療行為に関連した死亡の調査分析について。病理医の役割 / 診療行為に関連した死亡の調査分析　過去の事例 review

Ⅵ. 週間スケジュール

月～金曜日　１～５症例の外科病理標本の診断、指導医の検閲を受ける。
月～金曜日　10:30～12:30　院内 病理検体の肉眼記録、切り出し
　　13:00～14:00　院外 病理検体の肉眼記録、切り出し
火・水・金曜日 8:30～11:00 外科手術症例の肉眼記録、切り出し
火曜日　17:30～19:00　CPC（臨床病理検討会）参加
水曜日　術中迅速診断に参加（週１日、曜日はローテーション可）
木曜日　8:30～10:00　症例検討会に参加
金曜日　17:00～17:30 担当指導医とのミーティング（満足度チェックを 含めて）

曜日	午 前	午 後
月	オリエンテーション（第 1 週） 術中迅速診断（曜日変更可） 10：30　病理検体切り出し	外科病理標本の診断、指導医の検閲 ルーチン診断ダブルチェック参加
火	8：30 外科手術症例切り出し 10：30　病理検体切り出し	外科病理標本の診断、指導医の検閲 17：30　CPC ルーチン診断ダブルチェック参加
水	術中迅速診断（曜日変更可） 8：30 外科手術症例切り出し 10：30　病理検体切り出し	外科病理標本の診断、指導医の検閲 ルーチン診断ダブルチェック参加
木	8：30　症例検討会 10：30　病理検体切り出し	外科病理標本の診断、指導医の検閲 ルーチン診断ダブルチェック参加
金	10：00 外科手術症例切り出し 8：30 外科手術症例切り出し 10：30　病理検体切り出し	外科病理標本の診断、指導医の検閲 ルーチン診断ダブルチェック参加 17：00　ミーティング

＊ 剖検が入った際には、その参加を優先する。

＊ 表のあいた時間は外科病理診断を行う。

Ⅶ. 研修プログラム責任者・副責任者

責 任 者 ： 濵﨑　慎 病理部診療部長・主任教授

副責任者 ： 濵田義浩 病理部副診療部長・准教授

Ⅷ. 指導医一覧

濵﨑　慎 病理部診療部長・主任教授

濵田義浩 病理部副診療部長・准教授

上杉憲子 准教授 病理専門医

青木光希子 講師 病理専門医

古賀佳織　講師 病理専門医

武藤礼治　助教 病理専門医